

宮崎医科大学附属病院広報誌の発刊に寄せて

病院長 住吉 昭 信



私たちは、今まで病院のことについて皆さんに知っていたくよう広報に努めてきた積もりでございましたが、患者さんに聞いてみますと意外にもそれが伝わっておりませんでした。そこでいろいろな切り口で私たちの病院の現状をもっとよく理解していただくよう、定期的に広報誌を発行することにいたしました。これをお読みいただいて、病院を理解していただくと共に、こんなことについて知りたいとか、こうして欲しいとか、色々

なご意見を頂ければ幸いです。

「今まで大学病院は、患者をモルモット代わりにして研究するところである」というように理解しておられる方もあるように聞くことがあります。勿論よりよい治療法の開発・研究は、何時も行っていますが、患者さんに隠してそのようなことを行うことはありません。後に掲げる「病院の理念、患者さんの権利」に謳っているように、患者さんの希望を聞き、権利を尊重しながら、常にそれぞれの患者さんに最も適した医療を行うことを目指しています。

勿論宮崎医科大学は、医師、看護師養成教育機関でありますので、附属病院では医学科、看護学科の学生が実習をしており、それらの学生がたびたび患者さんに接することがありましよう。また医学科を卒業して医師免許を取得してはいますが、より良い医師を目指して修行中の医師が卒後臨床研修医として、指導医と共に、皆さんのお世話をすることがあると思います。このように教育機関に於いては実習、研修、診療は、同時進行的にやらなければいけない不可分の関係にありますので、この点はあらかじめご理解、ご協力をいただきたいと思います。

医療は日進月歩でありますので、私たちは宮崎の中核病院として最高の医療を提供できるよう日々精進して参るつもりであります。皆さんのご叱正をいただき、足りないところは改めて行きたいと思っています。この広報誌を通じて病院の現状の理解がより深まることを期待しております。



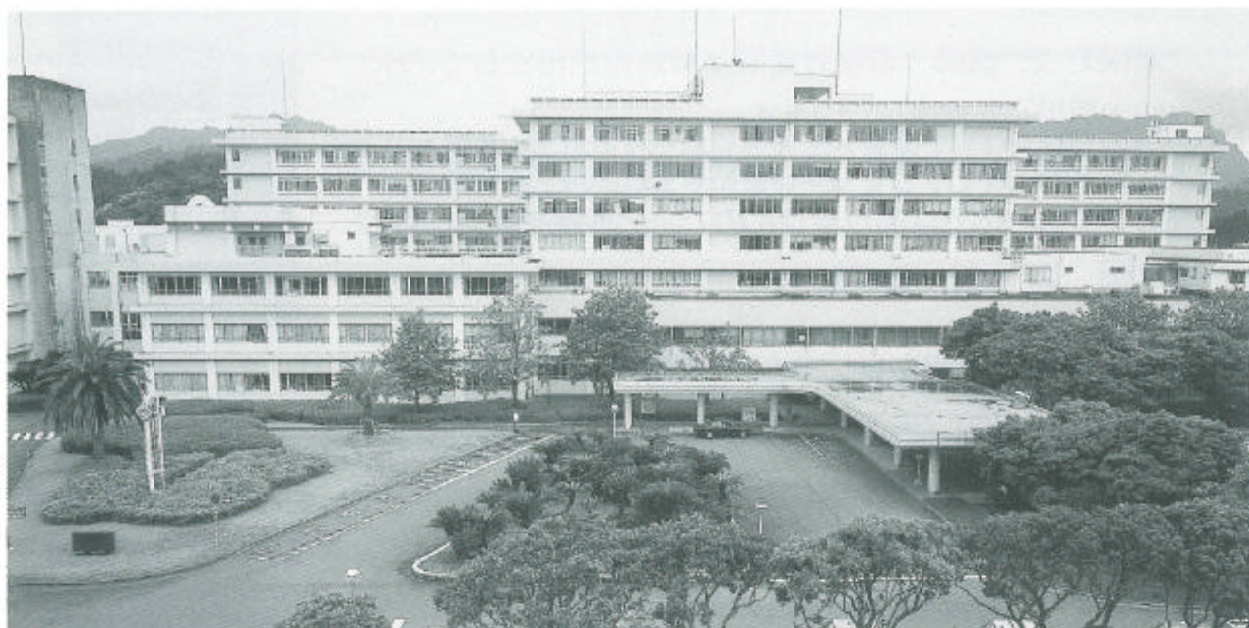
「21世紀COEプログラム」の 拠点に選ばれて

学長 松尾 壽之

10月3日付けの新聞各紙の朝刊に「文部科学省COEプログラムに宮崎医科大学が採択」と一斉に報じられたのをごらんになった方も多いかと思います。COEとは、優れた拠点（Centers of excellence）の頭文字を取ったものです。文部科学省は、国民の税金を有効に使って、国際的に通用する世界最高水準の大学造りを推進しようと、国公立全大学を対象に、10の学問分野について、各分野ごとにそれぞれ約20の拠点研究を選び、重点的な研究支援を行うという「21世紀COEプログラム」を新しくスタートさせました。当初、「トップ30大学構想」とも呼ばれたもので、初年度に当たる今年度は、「生命科学」「化学」「情報」「人文科学」および「学際領域」の5分野から約100件の優れた研究拠点をを選び、毎年総額160億円程度の研究費を5年間にわたって支援するという計画であります。各大学のこれまでの研究実績や今後の研究計画が厳しく評価されますが、そのほかに、目的達成のために、大学組織ぐるみのビジョンと姿勢が厳しく問われました。ですから、各大学が、その実績と名誉をかけての応募となりました。今年、上記5分野で163大学464件の応募がありました。われわれ宮崎医科大学が応募した「生命科学分野」はこのほか厳しい競争率で、80校から寄せられたいずれ劣らぬ自信作112件がしのぎを削り、厳しい選考の結果、28件の研究課題が選ばれました。われわれのテーマ「生理活性ペプチドと生体システムの制御」が高い評価を受け、その一つに採択されたのです。国公立の総合大学に伍して、単科医科大学では唯一の採択であることを、誇らしく思います。自分たちの手で新しいホルモンを見つけ出し、自分たちの手でその未知の役割を解き明かそうというものであります。まだ知られていない体の仕組みや、それに関する病気についての新しい発見につなげたいと思っています。宮崎医大は、この研究に関して、多くの成果を上げて、国内外の注目を浴びていましたが、大学全体が、世界的な研究拠点として高く評価されたのは、はじめてであり、これまでの皆さんの努力が認められたと言えるでしょう。宮崎医科大学は、宮崎大学と統合して、新しい大学を作ろうとしています。これを機会に生命科学に特色を持った個性豊かな大学に変わろうとしています。この理念を実現しようと、宮崎医大は新しい大学造りの道を探しています。まさに、この時、宮崎医大が迎ってきた足取りの一つが、「21世紀COEプログラム」という形で認められたのです。このニュースを聞いて、この大学に、そして特に病院に係わる皆さんと、喜びを分かち合えたらと思います。今後、厳しい評価に耐える成果を上げる重い責任がありますが、この喜びはこれからの宮崎医大を造り上げる大きな力に変わっていくことと信じています。

生活習慣病の総合的克服を目指した医療

北 俊 弘



第一内科は循環器、腎臓、高血圧、消化器（主に消化管）の4つの診療分野を担当しています。今回は「生活習慣病」という視点から主に高血圧と循環器の取り組みについて紹介したいと思います。

ところで、生活習慣病という名前を聞いたことはありますか。これは「体の負担になる生活習慣」を続けることによって引き起こされる病気の総称で、数年前は「成人病」と呼ばれていました。代表的な生活習慣病は高血圧、糖尿病、高脂血症ですが、なかでも高血圧の患者さんは日本国民の4人に1人、約3,500万人いるといわれています。これらの疾患はある程度まで進行し、合併症がでてくるまでは自覚症状に乏しく、注意を受けたとしても放置している方も少なくないと思います。しかし、病気は静かに、だが確実に進行し、やがては脳卒中や心臓病を起こすこととなります。特に高血圧は、「サイレント・キラー（静かなる殺し屋）」と呼ばれており、決して侮ってはいけない恐ろしい病気なのです。また、高血圧、糖尿病、高脂血症はお互いに合併することが多く、一人で複数の病気を持っている患者さんは、脳卒中や心臓病を発症する危険が極めて高くなります。まずは自分の健康状態を知ることが大切であり、健康診断などで異常を指摘されたら、早めに医師に相談し、正確な評価を受けるようにしましょう。

脳卒中や心臓病（狭心症や心筋梗塞）は突然発症することが多いのですが、実は発症に至るはるか前から動脈硬化という形で血管の病変はゆっくりと進行してきているのです。そこで、脳卒中や心臓病の予防には高血圧などをコントロールするとともに、現在の動脈硬化の程度を知ることが重要となってきます。当科では簡便に実施できる方法としてエコー（超音波診断）による頸部血管の評価や、脈波伝播速度による動脈硬化度の計測を行っております。

さらに動脈硬化が進行するといろいろな症状がでてきますが、ここでは心臓に関して解説します。心臓は体全体に血液を循環させていますが、たえまない心臓自身の動きは冠動脈という血管系で支えられています。この冠動脈に狭窄が起きると、心臓が必要とする酸素や栄養を十分供給できなくなり、狭心症が発症します。狭心症は持続の短い胸痛が特徴的であり、運動（階段を上るなど）や重いものを持ったときなどに痛みが出現してきます。さらに進行して冠動脈が閉塞して心臓の筋肉が死んでしまうと、心筋梗塞となります。これは持続的な胸痛が特徴的ですが、重症ではショック状態となったり、急死してしまうこともまれではありません。狭心症や心筋梗塞を発症した場合、できるだけ早期に専門施設を受診するかどうかで、その後の運命が大きく変わってきます。最近ではカテーテルという細い管を使って血管の中から狭くなったり、閉塞した冠動脈を治療する方法が普及しています。冠動脈の病変部で血管の中からバルーン（風船）を膨らませることで、強制的に血管を押し広げる治療ですが、当科では技術の進歩もあり、高い成功率が得られています。さらに広げた部位が再び狭窄しないようにステントという支えを血管内に挿入したり、血管内の動脈硬化病変を削り取ったりする治療法も行っています。早期の治療で血管系の修復に成功すれば、心臓へのダメージは最小限に抑えることができ、その後の生活の質が改善できるのです。

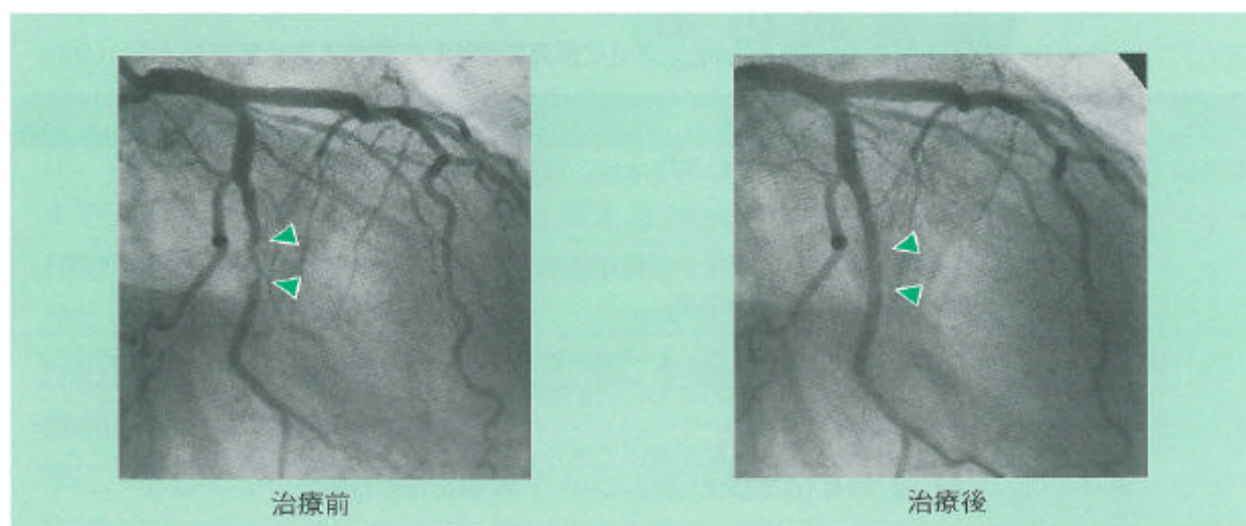
生活習慣病は現在では避けて通れない病気と考えられております。

- ①自分の体に注意をはらうこと
- ②定期的に検査や診察を受けること
- ③異常があれば早期に治療を受けること

これが大切なポイントとなります。第一内科では生活習慣病の初期から合併症が出現した場合まで、広く総合的に検査、治療を行える体制ができています。自分の体に不安のある方は遠慮なく御相談下さい。

第一内科ホームページアドレス

<http://www.miyazaki-med.ac.jp/medicin1/index.htm>



カテーテルによる冠動脈狭窄病変の治療

本院の理念

- 患者中心に、心のこもった最適な医療の実践
- 地域の人々の要求にこたえる医療の実践
- 先端医療の開発と提供
- 幅広い知識・確かな技術を備えた人間性豊かな医療人の育成
- お互いを尊重し、力を合わせて医療に取り組み、働くことが楽しい病院づくり

患者さんの権利

本院は患者さんの権利を守ります。

- 誰でも良質な医療を公平に受けることができます。
- 診療の内容などについて、あらかじめ十分な情報と説明を受け、理解した後、同意あるいは拒否を選択する権利があります。
- 診療録に記録された自分の診療内容について、本院の規則に沿って、情報の提供を受けることができます。
- 診療内容その他についてあなたの情報は保護されます。
- 患者さんの尊厳は、医療行為のあらゆる場面において尊重されます。



患者さんの声にお答えいたします

本院では、各階に投書箱を設けています。その投書箱に投書のあった要望をはじめ、封書等で寄せられたご意見に対して、病院の担当者が応えていく欄です。

今後も、この欄を充実させていきますので、ご意見ご要望をどしどしお寄せください。

投書箱の声

[ご意見は要約して載せております]

事項	投書の概要	投書に対する改善策・対策等
設備に関すること	食堂は明るくていいのですが、時計がないので付けてください。	設置します。
	外来駐車場に、学生や職員が駐車しています。改善願います。	外来駐車場に教職員、学生が駐車しないよう取り締まります。
その他に関すること	内服薬を2種類（粉）を子供が飲んでいるのですが、両方ともに白い粉で間違いそうです。 他の病院では、名前が書いてあり、赤い線が引いてありました。	白色の散剤が2種類以上の場合にはオレンジ、緑、黄、紫、茶、のマジックで分包紙に線を引くとともに、用法が違う場合は別々の薬袋に入れることといたしました。
	洋式トイレに、ウエルパスが置いてあるといいかと思えます。	設置します。

病院からのお知らせ

院内使用のPHSについて

本院では、医師・看護職員等が緊急連絡用としてPHS（院内専用）を携帯しています。

このPHSは、特別な仕様となっており医療機器に悪影響を与えるものではありませんので、ご理解をお願い致します。



院内放送について

本院では病院環境改善のため院内放送の取り決めをしております。

火災等の緊急放送、診療及び病院業務に関連のある放送、業務連絡などの放送をする場合もありますが、できるだけ院内放送を少なくするよう努力してまいりますので、ご理解をお願い致します。

病院ボランティアの募集について

本院では、ボランティア活動をしていただく一般の方を広くもとめています。あなたの優しさを大学附属病院でいかしてみませんか。

申込（問合せ）先

宮崎医科大学業務部医事課
〒889-1692宮崎県宮崎郡清武町大字木原5200
TEL 0985-85-9132 FAX 0985-85-9186
E-mail : miyaidaiijika@fc.miyazaki-med.ac.jp



● 編集事務 ●

宮崎医科大学 地域医療連携推進センター

〒889-1692 宮崎県宮崎郡清武町大字木原5200
電話・FAX (0985) 85-1893